



先人の志を受け継ぎ 社会貢献を

ダイハツ工業株式会社
取締役社長

箕浦 輝幸

産業立国に貢献する発動機の国産化をめざして、当時の大阪高等工業学校（現・大阪大学工学部）と大阪の実業家の有志が、ダイハツ工業の前身である「発動機製造（株）」を創設したのは1907年のことでした。官営でも財閥系でもない、今日の産学協同の先駆けともいべきユニークな企業としてスタートを切りました。

当時の日本は、常時10人以上の従業員規模をもつ工場は全国で1万未満、うち動力源に原動機を使用しているのは半数にも及ばず、しかもそのほとんどが輸入品という時代でした。

ゼロからのスタートという厳しい条件の中で、安定した地位を捨てて創業に加わり、国産発動機の開発・生産に燃えた先達の真剣なモノづくりへの姿勢は、自動車の開発・生産に進出した1930年以降も、第一号車で

ある三輪車や戦後のミゼット、そして今日の軽自動車をはじめとするスモールカーまで、私どものDNAとして連続して受け継がれてまいりました。

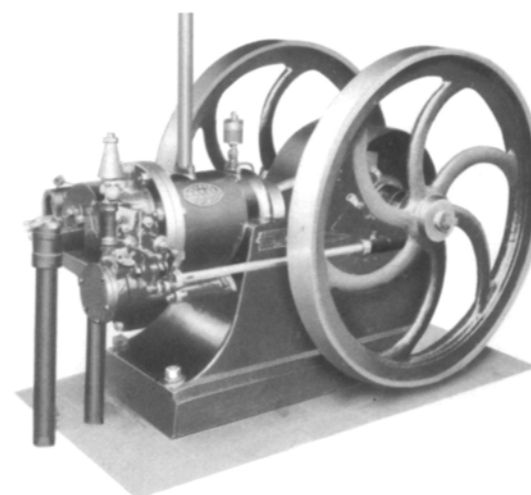
日本企業の強さを支えている要素は多々ありますが、中でも「企業も従業員も会社生活を通じて成長して行く」という考え方が、強い現場、優れた従業員を育ててきたのではないかと思います。

ダイハツの現場も、「人を育て、大切にする」職場づくりを進めてまいりました。ただ、将来に向けて企業が社会の要請、お客様のご要望にお応えし、貢献できる企業を目指すためには、先人の築いてきた良きDNA、志を従業員が共有し、後輩に伝えて行く企業風土づくりも大きな使命だと考えております。

モータリゼーションの進展とともに、自動車に課せられ



ダイハツ工業の前身、「発動機製造（株）」の創立当時の事務所（左）と、工場（右）



最初の製品「6馬力吸入ガス発動機」（1907年）

た使命も変化してまいりました。有限な地球資源を踏まえて、環境負荷の少ない健全な経済の発展をめざす循環型社会への転換に貢献することが、私どもに課せられた使命であり、企業存続のための必達目標だと認識いたしております。

ダイハツの得意としておりますスモールカーは、世界的に環境負荷の少ないクルマとして注目されていることはご承知の通りです。とはいえ、確実に増加していくであろう台数を考えれば、一層の環境への取り組みが不可欠であることは言うまでもありません。

ダイハツには昭和40年代から電気自動車、ハイブリッド車の販売を行った歴史がございます。本年9月には軽商用車では初めてのハイブリッド車「ハイゼットカーゴハイブリッド」を発売いたしました。現在公道試験中



ハイゼットカーゴ ハイブリッド



ミラ セルフマチック

の燃料電池車も含めて、クリーンエネルギー車の開発に一層注力してまいります。

また、貴金属の使用量を画期的に削減できるインテリジェント触媒を始めとする環境技術の研究を進め、コンベンショナルなエンジンの改良も含めて、多面的にスモールカーにふさわしい環境に優しいクルマへと進化をさせていく取組みを進めていきたいと考えております。

他方、クルマの持つモビリティのメリットをひとりでも多くのお客様にお届けすることも、自動車メーカーの大きな使命です。ダイハツ車も世界のお客様から、経済的で身近なクルマとしてご支持をいただき、様々な生活シーンの良きパートナーとして活躍させていただいております。

ダイハツはこの観点から福祉車両への取組みを重要な課題と考え、積極的に開発を進めております。8月には軽で初めて車椅子ごと運転席に乗り込むことができる「ミラ セルフマチック」を始め、年内発売予定の4車種を発表させていただきました。

高齢化の進行と在宅介護の増加、ハンディキャップをお持ちの方の自立支援等、パーソナルな使用に適したスモールカーの福祉車両はお客様のご要望にお応えできるものと信じております。

私どもはお客様にワクワクしていただける魅力ある商品の投入はもちろんのこと、スモールカー分野で環境、福祉車両のトップメーカーをめざし、社会に貢献できるよう全力投球してまいります。

皆様方のご支援、ご指導を賜れば幸いです。